

図書委員のおすすめの本！



「エヴァンゲリオン化する社会」
常見陽平

ブラック企業出現、女性の活躍、使い潰される労働者、若者への過剰な期待、得体のしれない社会不安…そういった問題を、アニメ『新世紀エヴァンゲリオン』を通して見ていく労働社会論です。



「アルジャーノンに花束を」
ダニエル・キイス

知的障害を持つ主人公チャーリーが脳手術によって天才になった。しかし、頭が良くなるにつれて知りたくもない事実を理解するようになった。また、知らず知らず他人を見下すようになり、周囲の人が離れ孤独感をいだくのだった。



「傷物語」
西尾維新

物語シリーズ第一作、『化物語』の前日譚であり、主人公、阿良々木暦が金髪の吸血鬼に出逢うお話。三部作からなる映画の中編が今年夏に公開となるので、まだ読んでいない方はぜひ前編のDVDとご一緒にご覧ください！



「文学少女と死にたがりの道化」野村美月

文学少女シリーズ、第一作目です。本が食べちゃうくらい大好きな“文学少女”天野遠子と平穏と平凡を愛する少年井上心葉。2人が所属する文芸部に何故かやってきた依頼。それは単なる恋文の代筆だったはずが思わぬ事件になってしまっ…!?人間の心が分からない孤独の“お化け”の嘆きと絶望の物語がここに始まる。

教頭先生にインタビュー～～！

Q1 先生のお気に入りの本を教えてください。

黒澤酉蔵(伝記)

Q2 その本を選んだ理由は何ですか。

その人物は明治十八年、常陸太田市の貧農の家に生まれた。彼は幼い頃から勉学に熱心で、十四歳で上京し、私塾で給仕生として住み込みながら苦学した。そして、十六歳の時に運命の出会いが訪れる。足尾銅山鉱毒事件で明治天皇に直訴した田中正造の門を叩いたのだ。田中の強烈な正義感と、人間愛の尊さ、崇高な人格に打たれ、田中の秘書として働いた。二十歳の時、母親の死をきっかけに、幼い弟妹を養うため北海道に渡って牧場の牧夫となった彼は、毎朝三時に起きて夜の十時まで目一杯働き、経営を支えたという。健土健民(日本の国土を肥沃にすることで、国民の体も心も穏やかになっていく)・三愛精神(人を愛し、神を愛し、土を愛す)で、生涯を酪農の発展に捧げた郷土の偉人である。その人物とは、「雪印乳業」の創業者、「酪農学園大学」の設立者で、「日本の酪農の父」と呼ばれる黒澤酉蔵である。その勇気と行動力に驚嘆し、敬服する。酉蔵に関する本の一読を勧めたい。

Q3 日立北の生徒に一言お願いします。

皆さんの前にはどこまでも続く道があります。それは決して平坦な道ばかりではありません。上りもあれば下りもあり、凸凹道もあるでしょう。時には激しい嵐に遭うことも、凍てつく寒さを経験することもあるかも知れません。しかし、人生は常にチャレンジ。挑戦 なき人生はつまらないものです。偉人の生き様から多くを学び、困難を恐れず、真っ直ぐ前を見つめ、遙か遠くにあるゴールを目指して歩いて行って欲しいと思います。

新しい本の紹介

* 読書感想文課題図書 3冊

「タスキメシ」 額賀 滯

「シンドラーに救われた少年」 レオン・レイソン

「ハーレムの闘う本屋 ルイス・ミショーの生涯」

ヴォーンダ・ミショー・ネルソン

「デパートを発明した夫婦」 鹿島茂
「リーマン予想とは何か」 中村亨
「大学への数学」に挑戦」 山下光雄
「東大教授が教える独学勉強法」 柳川範之
「ふむふむ おしえて、お仕事！」 三浦しをん
「桃色トワイライト」 三浦しをん
「私がかたりはじめた彼は」 三浦しをん
「格闘する者に〇」 三浦しをん
「スキキライ」 藤谷燈子
「告白予行練習」 藤谷燈子
「ヤキモチの答え」 藤谷燈子
「初恋の絵本」 藤谷燈子
「今好きになる。」 藤谷燈子
「ねこの肉球」 荒川千尋・坂東寛司
「民王」 池井戸潤
「麺と日本人」 椎名誠
「ねこまたのおばばと物の怪たち」 香月日輪
「猫弁 天才百瀬とやっかいな依頼人たち」 大山淳子
「猫弁と透明人間」 大山淳子
「猫弁と指輪物語」 大山淳子
「猫弁と少女探偵」 大山淳子
「猫弁と魔女裁判」 大山淳子
「恋都の狐さん」 北夏輝
「三匹のおっさん」 有川浩
「希望ヶ丘の人々 上・下」 重松清
「たぶんねこ」 畠中恵
「楽隊のうさぎ」 中沢けい

図書館は夏休みも開館しています。静かな場所で集中したい人にはおすすめですよ。

今月の

